

地域のために 未来のために

筑波銀行
Tsukuba Bank

茨城県南に密着した地域紙

常陽新聞

月刊 月～土曜発行 第175号 <http://joyonews.jp>

2014年 8月23日(土)
(平成26年)

発行所：常陽新聞株式会社
〒305-0031 茨城県つくば市吾妻3-10-13
☎029-869-9800(代) FAX029-869-9836

月額購読料(電子版セット)2,080円(税込)
購読申し込み ☎0120-104-298 1部税込み100円



柴沼醤油醸造の製品を試食する海外食品バイヤー＝土浦市虫掛

海外バイヤー 伝統の味堪能

海外の食品バイヤーを招いた視察が22日、土浦市虫掛の老舗しょうゆ会社「柴沼醤油醸造」であった。県産品の品質の高さを売り込んで輸出拡大につなげようと、日本貿易振興機構(ジェトロ)茨城貿易情報センターが主催した。六つの国・地域のバイヤー10人が伝統的なしょうゆ製造を視察した。(橋本ひとみ)

県産品PRでジェトロ案内

土浦の柴沼醤油視察

農産物展示商談会の「アグリフードEXPO東京」(20～21日、東京)の参加バイヤーを県内に招き、加工品・農産物の生産現場視察と試食会を実施した。内訳はタイやインドネシア、ドイツなどの輸入業者や食品卸売業、小売業など。銚田市内でメロンの選果場視察なども行った。柴沼醤油醸造は約3年前から製品輸出に乗り出している。一行を迎え、柴沼秀篤社長らが約320年前に創業した歴史や醸造の流れ、特徴を説明した。蔵などの現場を見学しながら「大手メーカーと違い、木桶(おけ)で醸造しており、味や香りが違う」などと説明。生しょうゆや製品の味見もあり、説明後には個別に興味を示すバイヤーもいた。

香港の企業から訪れたコク・エミーさんは「長い歴史のあるところで、長く続いているというのは、商品や何かに魅力があるのだと思う。商品としてはすばらしいと思う」と印象を語った。柴沼社長は「各国を回り商談しているが、なかなか来てもらってやれるということはな

い。蔵などの歴史の特徴が強く、こういう機会は大事」などと振り返った。



視察に訪れた海外食品バイヤーを案内する柴沼社長(左)＝土浦市虫掛

ジェトロ茨城貿易情報センターの担当者には「実際に見ていただくことで分かることがあ

る。日本の食品の品質の良さを知ってもらい、輸出につながってほしい」と期待した。

きょう・あすの天気

県南部	あさ	ひる	よる	あす
降水確率(%)	10	30	50	40
	22°C	23°C	21	22

【概況】上空の寒気や湿影響で、午後から大気のに。県内は曇り時々晴れ雷を伴い激しく降る所